

October 5, 2022

【前日の為替概況】米 10 年債利回り 3.55%台でドル安 対円 143.90 円、対ユーロ 0.9999 ドル

4日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は144.13円と前営業日NY終値(144.55円)と比べて42銭程度のドル安水準だった。欧州株高に伴うクロス円の上昇につれた円売り・ドル買いが先行すると、21時過ぎに一時144.93円と日通し高値を付けたものの、政府・日銀による円買い介入への警戒感から節目の145円には届かなかった。

米労働省が発表した8月の雇用動態調査(JOLTS)では、求人件数が1005.3万件と前回の1117.0万件から大幅に減少し、予想の1108.8万件を下回った。週末の9月米雇用統計に注目が集まる中、米労働市場の軟化が示されたことで、米長期金利の低下とともにドル売りが優勢となった。米金利低下で米国株相場が上げ幅を拡大したこともリスク・オンのドル売りを促し、4時過ぎには一時143.90円と日通し安値を更新した。なお、主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時110.06と9月20日以来の安値を付けた。

ユーロドルは続伸。終値は0.9986ドルと前営業日NY終値(0.9826ドル)と比べて0.0160ドル程度のユーロ高水準だった。欧州時間発表の8月ユーロ圏卸売物価指数(PPI)が過去最高を記録したことでユーロ買いが先行。予想を下回る米労働指標をきっかけに、ひっ迫した状況が続いていた米労働市場の軟化が示されたとの見方から、米利上げ減速観測が高まったこともドル売りを誘った。4時過ぎには一時0.9999ドルと9月20日以来の高値を付けた。

ユーロ円は5日続伸。終値は143.93円と前営業日NY終値(142.02円)と比べて1円91銭程度のユーロ高水準。ダウ平均が一時830ドル超上昇するなど、米国株相場が底堅く推移すると、投資家のリスク志向が改善し円売り・ユーロ買いが優勢となった。24時30分前に一時144.08円と9月14日以来の高値を更新した。その後の下押しも143.62円付近にとどまった。

【本日の東京為替見通し】ドル円は上値が重い展開か、RBNZのハト派サプライズに要警戒

本日の東京外国為替市場のドル円は、米10年債利回りが3.6%台で推移していることで、上値が重い展開が予想される。

最近のドル円の高値は、10月4日が144.93円、3日は145.30円、9月30日は144.81円までで、145円台での本邦通貨当局によるドル売り・円買い介入への警戒感が上値を抑える展開が続いている。本日は、ドル買いの原動力ともいえる米10年債利回りがやや低下基調にあることや週末の米9月雇用統計への警戒感が高まっていることで、上値が重い展開が予想される。

日銀が昨日発表した9月のマネタリーベースの平均残高は前年比3.3%減の634兆1934億円となった。前年比でマイナスとなるのは2012年4月以来で、減少幅は2007年6月以来の大きさとなった。

2013年4月4日、黒田日銀総裁は、デフレからの脱却を目指して、「物価上昇率2%」をターゲットに「異次元の金融緩和」という黒田バズーカ砲第1弾を発射した。マネタリーベースの残高は2012年末が138兆円だったが、2013年末が200兆円、2014年末が270兆円と示唆されていた。しかし、インフレ目標2%は、マネタリーベースを2倍にしても2年間では達成できず、10年目の2022年4月に前年比+2.1%に乗せることで達成できた。マネタリーベースは、過去最大規模の687兆4736億円で約5倍となっていた。マネタリーベースが減少に転じたということは、黒田日銀総裁の2023年4月の任期満了に向けて、金融政策正常化がステルス的に始まったのかもしれないため、今後の注目ポイントになる。

10時に発表されるニュージーランド準備銀行(RBNZ)の政策金利は、8会合連続での利上げで、3.50%への引き上げが予想されている。前回の声明では、「物価の安定と持続可能な雇用の最大化を維持できるペースで金融引き締めを継続することが適切だと合意した」と表明。ニュージーランドの4-6月期の消費者物価指数(CPI)上昇率は、前年同期比+7.3%と32年ぶりの高水準となっている。中銀はインフレ率を政策目標の1-3%の範囲内に戻すために「金融引き締めを継続する必要がある」と表明していた。リスクシナリオは、昨日の豪準備銀行(RBA)理事会のように、予想の+0.5%利上げではなく、0.25%の利上げに留まったハト派サプライズの場合となる。

RBA理事会の声明では、「インフレ達成と経済安定のバランスは不確実性に覆われている」と経済への懸念を示し、利上げの継続についても前回の「今後数カ月」から「今後一定期間」にハト派気味に変更していた。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 10:00 ☆ ニュージーランド準備銀行 (RBNZ)、政策金利発表 (予想: 3.50%に引き上げ)
- 15:00 ◇ 8月独貿易収支 (予想: 40億ユーロの黒字)
- 15:45 ◇ 8月仏鉱工業生産 (予想: 前月比横ばい)
- 16:50 ◎ 9月仏サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値 (予想: 53.0)
- 16:55 ◎ 9月独サービス部門 PMI 改定値 (予想: 45.4)
- 17:00 ◎ 9月ユーロ圏サービス部門 PMI 改定値 (予想: 48.9)
- 17:30 ◎ 9月英サービス部門 PMI 改定値 (予想: 49.2)
- 未定 ◎ ポーランド中銀、政策金利発表 (予想: 7.00%に引き上げ)
- 20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数
- 21:15 ☆ 9月ADP全米雇用報告 (予想: 20.0万人)
- 21:30 ◇ 8月カナダ住宅建設許可件数 (予想: 前月比▲0.5%)
- 21:30 ◇ 8月カナダ貿易収支 (予想: 34.5億カナダドルの黒字)
- 21:30 ◎ 8月米貿易収支 (予想: 677億ドルの赤字)
- 22:45 ◎ 9月米サービス部門 PMI 改定値 (予想: 49.2)
- 22:45 ◎ 9月米総合 PMI 改定値 (予想: 49.3)
- 23:00 ☆ 9月米サプライマネジメント協会 (ISM) 非製造業指数 (予想: 56.0)
- 23:30 ◇ EIA 週間在庫統計
- 6日 01:00 ☆ 4-6月期ロシア国内総生産 (GDP) 確報値 (予想: 前年比▲4.1%)
- 6日 05:00 ◎ ボスティック米アトランタ連銀総裁、講演
- 石油輸出国機構 (OPEC) とロシアなど非加盟産油国による「OPEC プラス」閣僚級会合
- 中国 (国慶節)、インド (ヒンドゥー教ダシエラ祭)、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

4 日 12:32 オーストラリア準備銀行(RBA)声明
「今後一定期間、さらに金利を引き上げると予想」
「世界経済、家計消費、賃金・物価設定の動向を注視」
「将来の利上げの規模とタイミングは、引き続き今後のデータやインフレ、労働市場の見通しに関する理事会の評価によって決定」
「インフレ率を目標に戻すという決意を堅持し、そのために必要なことを行う」
「優先事項は、インフレ率を長期的に 2-3%の範囲に戻すこと。そして、経済を安定させながら行うこと」
「このバランスを達成するための道は狭く、不確実性に覆われている」
「インフレ率は今後数カ月間にわたってさらに上昇し、その後 2-3%の範囲に低下すると予想」
「2022 年の CPI インフレ率は 7.3%前後、2023 年は 4%を少し超え、2024 年は 3%前後と予想」
「政策金利は短期間に大幅に引き上げられた」

4 日 15:59 トラス英首相
「現在の英国が直面している状況は 2019 年の選挙時とは違う」
「給付金の引き上げについてはまだ決定はしていない」

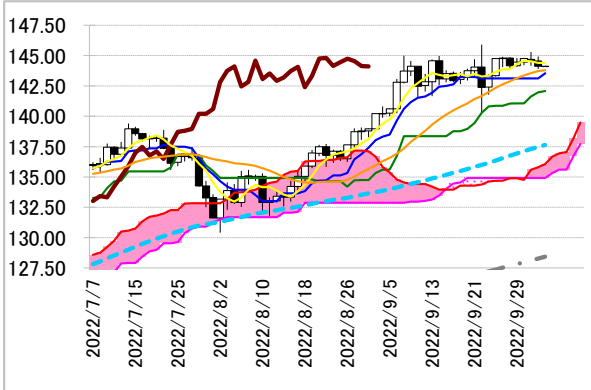
4 日 22:49 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁
「FRB はインフレ率の低下にコミット」
「FRB の行動が世界経済に影響を与えることを認識」
「労働市場を減速させる余地は多くある」

5 日 00:20 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁
「インフレがピークに達したかどうかを判断するのは難しい」

5 日 01:03 ジェファーソン米連邦準備理事会(FRB)理事
「我々は大胆に行動し、さらなる措置を講じることにコミット」
「価格安定の回復には時間がかかり、トレンドを下回る成長が続く可能性が高い」
「インフレ上昇を最も懸念している」
「雇用市場は非常にタイト」
「労働需給や経済の需給はやや緩和する見通し」
「供給のボトルネックが解消し始めた兆しがある」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

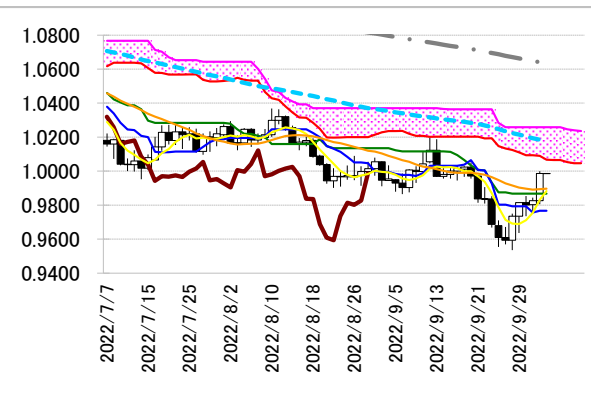


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。2手連続陰線で下落しているものの、転換線を上回って引けており反発の可能性が示唆されている。しかし、天井圏を示唆する「ダイヤモンド・フォーメーション」を形成しつつある可能性には要警戒か。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	146.48(1998/8/14 高値)
レジスタンス 1	145.90(9/22 高値)
前日終値	144.13
サポート 1	143.54(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	142.09(日足一目均衡表・基準線)

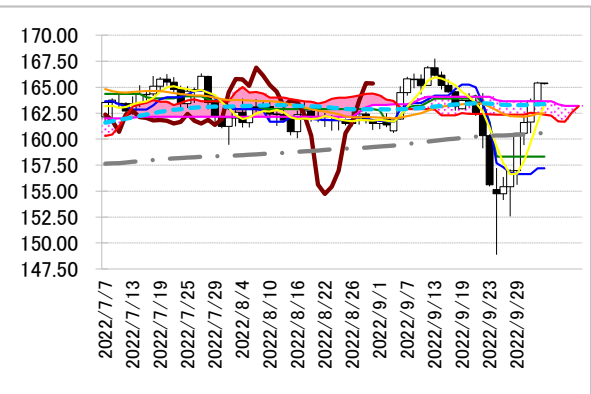


<ユーロドル＝基準線を支持に押し目買いスタンス>

大陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けており、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、2手連続陽線で上昇して転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.0067(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	0.9986
サポート 1	0.9867(日足一目均衡表・基準線)

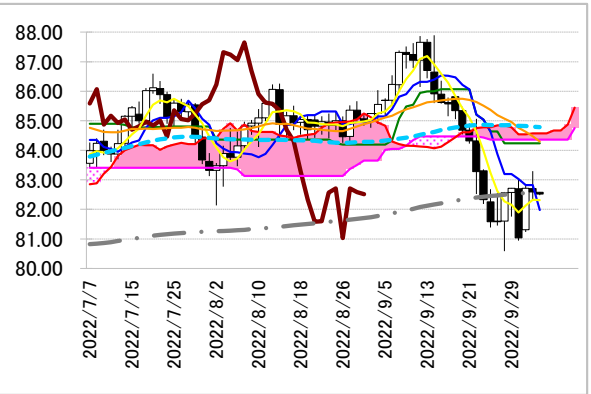


<ポンド円＝10/3 高値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けたため、買いシグナルが優勢な展開。6手連続陽線で上昇し、転換線を大きく上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、10月3日の高値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	166.52(9/14 高値)
前日終値	165.40
サポート 1	163.90(10/3 高値)



<NZドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

小陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けていることで三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、孕み線で反落したものの転換線を上回って推移しており反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	84.24(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	82.59
サポート 1	81.97(日足一目均衡表・転換線)

